

トークセッション詳細

□とっておきの風景の個性を際立たせる

- ・ 「とっておきの風景」に登録されている 914 件もの資源を、どう区民の方に伝えていくかが大きなポイントだと思う。
- ・ スポットが当たるような取組みとして、例えば、期間を設定して季節や時間、場面など様々な切り口でアピールをしていく方法があると思う。
- ・ 区民の方に「とっておきの風景」の価値を知って頂く手段としてホームページを使っていきたい。

□とっておきの風景の維持と人材育成

- ・ まちづくりの担い手で今後期待できる層は、3つあると思う。1つめは、高齢者。特に男性の方は会社や企業社会の中で一生懸命に働いてきて、退職後、地域デビューをしたいと思っている方がいる。また、ご夫婦でまちを歩いている方もたくさんいる。そういう方をまちづくりの場にうまく引き出すことがよいと思う。2つめは子育て世代のお母さん。子育て世代のお母さんは、すごく忙しいが、「お子さん第一、家庭第一」で地域が大切だから、地域の活動にもすごく熱心で、自分からやってくれる。3つめは地域の学生さん。先日、まちづくりにとても積極的な学生に会って感激した。
- ・ まちづくり活動の一番大事なことは負担感がないことだと思う。すでに先頭にたってまちづくり活動している方たちを中心にしながら、ちょっとやってみようという方を増やして裾野を広げることが、いいのかなと思う。

□地域の記憶を伝える

- ・ 「とっておきの風景」は、生活景という何気ない風景が多く、とても移ろいやすいため、残すのは難しいと思う。そのため、「本当に大切なもの」って何だろうということを考える機会となると思うし、投票制度はそのきっかけになると思う。
- ・ やむをえず登録解除になるものについて、「何が」なくなるというのが辛いのか、「なんで」なくなったのか、またそれらを「どう共有」するのかを考えることが、アーカイブズとしては大事ではないか。
- ・ なくなってしまったもののリストだけでなく、「なくなってしまっているけれど受け継ぎたいものはここなんだ」とか、継承したいという気持ちが分かるものになると、よいアーカイブズになるのではないか。
- ・ 記憶は人間の頭に入っていて、ハードだけでなくソフトのものもある。昔の記憶を語りつぐことが、まさに、まちづくりそのもの、コミュニティ醸成になるのかなと思う。

□景観資源を核とした景観まちづくり

◆景観資源を核とした景観まちづくりについて

- ・ 練馬区には、すでによい資源がたくさんあるので日常の風景をいかしながら、練馬らしさをいかした景観まちづくりをすすめる。
- ・ 区の行政内部では、商工観光課や文化財担当部署などと横の連携をしながらすすめていく。
- ・ 今後、練馬区は2～30年人口増加が予測されており、都市化が進む中で、今ある地域資源を残すべきものは残し、残すべきものでも残せないものはどうするか、また、新たにつくるものはどう作っていくか考えていくことが大事である。
- ・ 地域の誇りやアイデンティティをどう作っていくかが景観まちづくりの中でも大事である。

◆まちのブランド化

- ・ 練馬のブランディングは二つ、内と外。内は、区民、行政の方も含めて「練馬区はこんなに素晴らしんだよ、ぜひみんな来てください。」という気持ちを住んでいる人が持つことが大事で、それが、愛着や誇りになっていく。
- ・ 練馬生まれ練馬育ちの人（特に親からの継承で住んでいる人）の中には、練馬の良さをよく分かっていない人もいると感じている。他方、練馬の良さを分かって、ほかのまちから移り住んでくる人が多いと思う。
- ・ 大きな木の所有者の「維持するほうは大変だ」という実態があり、新住民の方の中には、「練馬の自然豊かなところが好き」という気持ちで入ってきている方もいて、両者の気持ちや事情を知ってもらうことが重要だと思う。
- ・ 練馬区は何もないというのではなく、「普通のまち」がこれからはブランド。また、今、日本ではまちあるきのブームで、これは本当にブームにできると思う。

□その他の提案

◆福祉連携について

- ・ 景観の文字は、「観」だが、匂い、音、サウンディング、全部を合わせた環境が景観だと思う。
- ・ これまでも、五感で捉える風景や音風景といった福祉の視点から地域景観資源など取り組んできたが、今後も「福祉」と連携して取り組んでいく。
- ・ サポート、ファンを増やすということをやってもらいたい。大きくは、学校の生徒と業界団体を意識してもらいたい。業界団体は、例えば、医師会と商工会がポイントだと思う。（会場から）
- ・ 福祉の視点から景観資源を考えると、違うものが出てくるかもしれない。（会場から）
- ・ 「健康都市」の考え方から、医師会では「リハビリでまちをなるべく歩きましょう。」という取組みを考えているが、「実際、どこを歩きましょうか。」と投げかけがあったときに、まちづくりがどう受けていけるかを考えていくことが大事である。

◆道路整備について

- ・ 都道整備についても、できるだけ区も一緒になって協力していきたい。
- ・ 区と住民は都と比べて近い関係にあるので、区民が、「どういう思いを持っていて、どれだけあるのか」など、把握しやすい。都はそれより大きい広域を管轄しているのでどうしてもそこまで見えな。都道を整備するときに、区とどうタッグを組めるのか、様々な立場の住民と連携し、それぞれの思惑と繋がりながら、丁寧に議論をしていかないとうまくいかないと思う。

◆景観（みどり）の経済的価値について

- ・ ヨーロッパではオープンガーデンのコンクールを実施し、3位までは固定資産税を免除するという事例がある。練馬でも同様にコンクールをやって、みどりを継承してあげる取り組みができると思う。（会場から）
- ・ みどりがあるということが、地域の総資産として価値があると判断されるのであれば、固定資産税分を減免しても全体として価値が上がる試算になる。つまり、オープンガーデンにしても、住みたくなる人が増えて、そこからの税収が上がるという話になれば、重みづけなどまだ研究段階だと思うが、経済的支援をきちんと検討していくことが大事ではないか。
- ・ 固定資産税の話は大きな話として認識したが、23区は固定資産税の徴収権限をもっていない。
- ・ 東京都全体として、東京都がどう考えるかが大きな部分で、すぐには厳しいと思うが、研究の課題としては、税制をどう考えいくかということは、一つの検討材料だと思う。
- ・ 景観は、これまで「思い入れ、情緒、美しい」という話でずっとしているが、景観法をつくったときに大きな議論があったように、景観の経済価値を再度、認識すべきだと思う。それが、税金の話にもつながるし観光まちづくりにも繋がっていく。

◆みどりについて

- ・ 練馬区は、昭和52年に「練馬区みどりを愛し守りはぐくむ条例」の前身となる、「みどりを保護し回復する条例」を制定し、「憩いの森制度」「緑化協力員制度」ができ、すばらしいみどりの制度がたくさんあり、全国に誇れる先進区だと思う。
- ・ これからは都市化、市街化されてくると、みどりを活かした都市景観をつくるのが、これからの練馬の目標にすべきではないか。地域資源と繋がりながら、みどりがあるだけでなく、緑と人の生活、建物、道路とか一体となって、日本一の、世界一の都市景観が練馬でできると思う。人も場所も時代も全部非常にいい時期でないかと思う。